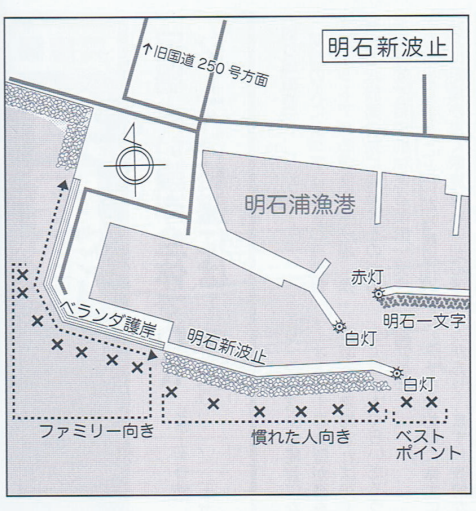
兵庫県

明石新波止（あかしんはと）

2010年秋のワインド 3人で爆釣150尾以上

レポート◎西尾匡弘（エイト玉津）



【釣り場概要】

明石浦漁港の西端からL字に突き出した明石新波止は例年、シーズンを迎えるとタチウオが大きな群れを作って回遊してくる好ポイント。

この波止は以前一文字だったものが陸続きとなったもので、先端の灯台から西に続く一文字時代の名残であるケーソン（沖側がテトラ帯）と、その途中から整備された手すり付きのベランダ部分の二つのエリアからなっており、灯台周辺およびテトラ帯は魚種を問わない人気エリアで、タチウオねらいでも灯台部分は先客がいなければぜひサオをだしたい好ポイント。

ファミリーで釣りをされる場合は足場がよく落下防止の手すりがあるベランダのほうが釣りやすくおすすめ。ベランダ側の釣果も非常によい場合もある。

例年、8月下旬から11月中旬までがシーズンで、初期は数釣りが期待でき、終盤は釣れる数こそ少なくなるが、指5本クラスの大型もねらえる。またベイトフィッシュの量にもよるが、シーズン途中で多くのタチウオが波止の前に居座り荒食いするタイミングがあり、2010年は9月初旬に爆発。その時は最大サイズこそ指4本クラスだったが、4時間の釣りでエイト玉津のスタッフ3人で150尾以上の釣果。そのほとんどがワインド釣法（ジグヘッドによるダート釣法）によるものであった。ここは安定感と爆発力を持ったポイントとなっている。

【釣り方】

タチウオが高活性な場合はルアーフィッシング、低活性時や群れが小さい時は、じっくり探れるエサ釣りがオススメ。

ルアーの利点としては手返しが早く、1尾釣ったあともエサの付け替えや仕掛けの結び替えの手間がないので、釣果を伸ばしやすい。反対にエサ釣りは低活性時でも確実にタチウオを誘えて、ルアーのようにアクションも関係なく、簡単なので初心者でも釣りやすい。

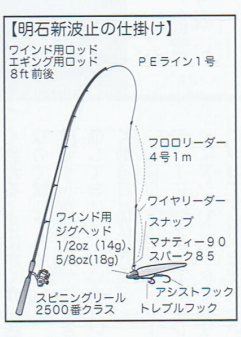
ルアーは近年流行のワインド釣法が効果的で、タチウオ釣りの新定番である。メインで使用するジグヘッドの重さは14gと18g。水深や潮流の速さに応じて使い分ける。潮が緩い場合は軽く、逆に速い場合は重くといったぐあい。ワームのカラーはグロー（夜光）のホワイト、レッド、パープルなど原色系が定番。人気は低いが意外とチャートカラーもヒット率が高い。

またタチウオ釣りでは装着に悩むことが多いワイヤリーダーは、ルアー、エサ釣りを問わず低活性時は嫌われる傾向にあるが、高活性時には気にせずにアタックしてくるので、タチウオの歯によるライブレイクを考えれば装着しておくことをおすすめする。

ワインド釣法の条件として、ジグヘッドをダートさせるロッドワークが必要となってくるが、エギングのシャクリのようなイメージで、それをフォール等の間を取らずに連続して行なうことが重要。潮流の速い新波止ではラインスラックを一気に叩ける強いロッドアクションがおすすめで、どんどんシャクってタチウオにアピールすれば釣果アップ間違いなし！

明石新波止の途中から先端部にかけては沖側にテトラが入っているので、ファミリーや初心者はその手前のベランダ部分の沖向きで釣るのがおすすめ

【明石新波止の仕掛け】



GUIDE

■アクセス■第二神明道路の玉津インターを明石方面に出てすぐ左にエイト玉津。そのまま国道175号を南下、国道2号の和坂の交差点も直進し県道718号で左折し明石方面へ。明石川を越えてすぐ、土手沿いを右折し道なりに進めば新波止の付け根付近に出る。

■問い合わせ■エイト玉津（☎078-922-0008）

必釣アイテム

【スパーク85】

ワインド用のワームとしてオススメなのが、アクアウェーブ・スパーク85。形やシルエットに大きな特徴があるわけではないが、通常のワームと違い引っ張っても切れない弾力性のある強い素材を使っており、タチウオの鋭利な歯をもってしても噛み切られる心配がまったくないので、非常に長持ちする。噛み切られてワームを消費することなく、アングラーの財布にも優しい超オススメアイテム

タチウオ釣りはおまかせ下さい

エイト玉津 スタッフ **西尾匡弘** デス

今回紹介させていただいたルアー、ワインド用品以外にもタチウオに関するさまざまなタックル、仕掛けなど地域最大級の品揃えをさせていただいております。また明石海峡周辺のいろいろな釣り場に近いため、新鮮な釣り情報を常時把握。第二神明道路を出てすぐの場所にございますので、明石方面に釣りに来られた際はぜひご来店下さいイチバンエイトグループ http://www.taikobo.net/index.html

大阪府

忠岡高場（ただおかたかば）

サオ2本で電気ウキ釣り 遠近を探り分ける二刀流

レポート◎喜多村洋平（フィッシングエイト）

【釣り場概要】

大津川河口左岸にある忠岡港から埋立地に渡った新浜緑地運動広場の先の護岸が「忠岡高場」と呼ばれる有名な釣りポイント。駐車スペースから徒歩で200mほど距離があるので、キャリーカートなどがあれば便利（途中に階段があるので、そこは頑張って！）。

釣り場は広く、9月末から11月末にかけての最盛期には、たくさんの釣り人で賑わう人気スポット。大阪市内からも高速道路を使えば比較的近いので、仕事を終えてから釣行するのもありだろう。

干満の差によっても多少変わるが「高場」と名が付くだけあって、水面から7m前後（もっとあるかも）の高さがあるので、万が一に備えて（柵はあるが）、お子様をはじめライフジャケットの着用をお忘れなく！

【釣り方】

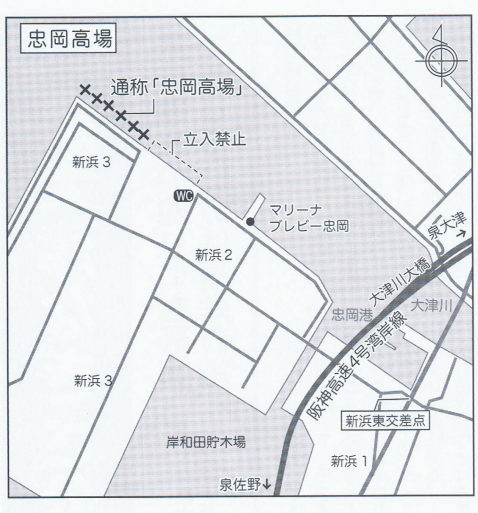
かなりの人気スポットなので、好釣果を出すためには、それなりの努力も必要となる。

釣り方は電気ウキ釣りがおすすめ。サオのだしすぎはNGだが、遠投がきく重い仕掛けと軽い仕掛けの2種類を用意。1本のサオで遠投し遠くのポイントを探り、もう片方のサオの軽めの仕掛けで足下付近を流し、広範囲にポイントをチェックすると効率がよい。

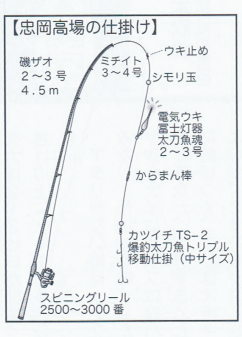
マメにウキ下の長さを調整し、エサもキビナゴだけでなく、イワシやサンマの切り身、ホタルイカなど、数種類を試したり、仕掛けに付ける水中ライトやケミカルライトのサイズや色を変えてみたりするなど、よく釣れている人の真似をするのもテクニックの1つ。水中ライトも最近では、色や光り方など、いろいろな種類が販売されているので試してみるとよいだろう。

エサの頭だけをかじられたりと、食いが渋い時には、大きくサオをあおったり、仕掛けの流れを少し止めてみたりなど、誘いをかけるのも効果的。個人的にはウキ下が矢引き（80～1m）ぐらいの、浅ダナねらいも有効と思っている。

タマヅメには去年から大ブレイクのワインド釣法で手返しよく釣果を上げ、日が落ちてからは電気ウキ釣りでじっくりねらうのがおすすめ。



【忠岡高場の仕掛け】



GUIDE

■アクセス■大阪方面からは阪神高速湾岸線の泉大津出口で出てすぐの泉北5区北で左折、汐見町で大阪臨海線（県道29号）に合流し大津川を渡り、新浜東交差点を右折、海側へ。阪神高速をくぐり突き当たりを右折し、少し進むと駐車スペース。

■問い合わせ■フィッシングエイト（☎06-6799-0080）

必釣アイテム

【太刀魚魂】

冨士灯器の太刀魚魂シリーズは涙型の自立電気ウキ。低重心設計なので遠投性と安定性が抜群で、波のある日や風のある日も釣りやすい。タチウオの小さなアタリも分かりやすいのでおすすめ

詳解 タチウオフィールドガイド 2011

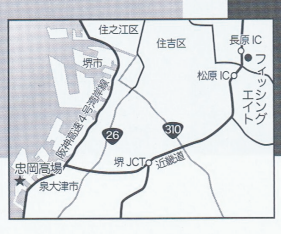
タチウオシーズンには電気ウキ仕掛けを投げる釣り人がずらりと並ぶ忠岡高場。海面から非常に高いので注意

タチウオ釣りはおまかせ下さい

フィッシングエイト スタッフ **喜多村洋平** デス

大阪市平野区長吉川辺の中央環状線沿いにある当店は、近畿自動車道の乗り口も大変近く、大阪湾のさまざまなポイントへのアクセスがとても便利な場所にあります。釣行前のお買い物にぜひご来店下さい。エサ釣り以外にも、ワインドなどのルアー用品の品揃えもバッチリです！

イチバンエイトグループ http://www.taikobo.net/index.html



若者よ、ルアーより来たれ。

入門者のための タチウオ湾岸実釣講座

指導◎山田知希さん

気まぐれだけど、ハリに掛かりにくいけれどタチウオは決して難しい相手じゃない。海でタチウオを釣ってみたい若者よ、ルアーでねらってみよう！

午後5時を回り夜の気配が濃くなった頃にエサ釣りでタチウオが1尾ヒットした。山田さん、急いで外向きにマナティーをキャスト、マジ勝負

中央が山田知希先生、左が竹田真弓さん、右が毛利容子さん

昨秋のとある週末、大阪南港のかもめ大橋下に山田知希さんとやってきたのは竹田真弓さんと毛利容子さん。「ほぼ初心者」とおっしゃる毛利さん、今春、エイト入社のフレッシュレディー竹田真弓さんは経験こそ浅いがやる気が見えるものの、実践経験が乏しく、釣果にあまり恵まれていない。

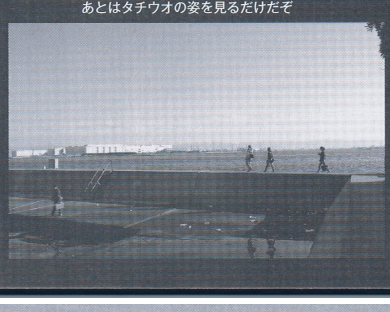
釣果がついてこないと楽しくない、楽しくなければ出かける意欲が落ちてしまう。

「最初は釣れやすい魚種や方法、場所を選びたいですね、釣ってもらって面白さを実感すると次につながりますから」

今回はルアーにこだわってタチウオゲットまで持ち込もうという作戦。必要な道具をお店で揃えることにした。

山田さんと店内をぶらぶらしながらプロの解説付きでタックル選び。ソフトルアー、特にワインドに興味がある2人にはホワイト系マナティーに専用ジグがセットされた「お試しセット」をチョイス。予備のハリ、ソフトルアーのほかライト類、ハサミ類、それらを入れておくバッカンなど、これだけあれば何とかなる用品をそろえ、足りない分は先生の私物をお借りすることにした。

かもめ大橋下の白灯波止外向きは秋のタチウオシーズンには大にぎわい。左奥が80本のロープで橋桁を吊っている、かもめ大橋



ポイントに到着。天高く気分は絶好調、あとはタチウオの姿を見るだけだぞ

山田知希さんはあらゆるタイプのルアーを駆使してタチウオを攻略しまくっている

大阪湾で釣りが公認されている岸壁の1つ、かもめ大橋下は有名なタチウオポイントでもある。到着した午後4時は釣りタイムには早いのかルアー派は山田チームの3人だけ。山田さん、まず2人に足下が安全な白灯波止の内向きポイントで遠くにルアーを届けるキャスト練習をしてもらう。

「回遊してくれば、偶然でも泳いでいる層にルアーを届けることさえできればアタックしてくれるのがタチウオ。ツボにはまってヒットが続くと初めのうち周囲が見えなくなるのでうしろに障害物がなく、人の通り道になっていないところを選んでやってもらっています」

毛利さん、竹田さんに最初用意されたルアーはバイブレーション（バリッド14g）。投げやすいことを意識しての選択は間違っていないが数投目にあっさり根掛かりで失い、次いでミノー（タイドスリムミノー125）をセットするもやはり根掛かりやキャストミスで失ってしまう2人。

「自信を持ってもらうため飛びのよいハードルアーを用意しました。タイプは違いますが、両方とも巻いているだけでバイトしてくるはずだったんですが…」

日が沈み、いよいよソフトルアーの出番。2人にはワインド独特のダートアクションを演出するのは技術的にも体力的にも問題があると判断、巻くだけで尻尾がプルプル揺れるシャッドテール系のパワーシャッド5inを投げてもらう。

「ジグヘッドは14g。パワーシャッドは巻くだけでヒットしやすいと評判のタチウオワームの定番の1つです」

ザンネンながらタチウオ釣り初体験はノーバイトに終わってしまったが、「何回かに1回くらいよい思いをして面白くなるものなのだ、釣りは」と自分に言い聞かせた山田さん、「条件がよい時にあらためて来よう」とストップフィッシングを2人に告げた。

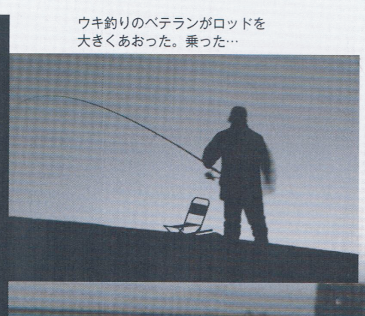
「日が暮れてからは真剣にやってもらいました。ワインドはアクションが決め手ですが、タダ引きでもバイトします。数が多い時はウキ釣りにマナティーをセットしてヒットしたという逸話もあるくらいです。彼女たちのリトリーブの様子からタナが深いと判断、自分は意識して浅い層を引きました、誰かのルアーにヒットがあればそのタナに集中できたのですが、私もアタリがあったのは足下で1回だけでした」

最近は情報化時代。ワインド釣法からタチウオ釣りに入門する若い人も少なくない。その場合、ワインド釣法独特のロッドアクションをインターネットの動画やDVDを見たり、釣具店で聞く、それが叶わない場合は現場で見て覚えることが大切。シャッドテール系のワームを用意する、深めや遠くのタナを探るためのバイブレーションやミノーも何本かタックルボックスに忍ばせておくのもいいアイデアだ。

内向きでキャスティングの練習に取り組む。毛利さん（右）も飛距離がだんだん伸びてきた

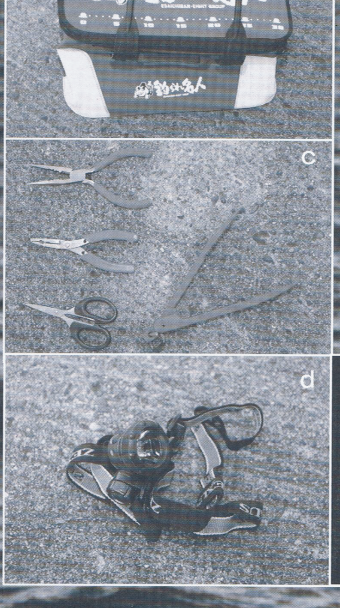
「わりと型がええな。これからやで」

ウキ釣りのベテランがロッドを大きくあおった。乗った…



「高価なタックルやルアーは必要ありません、揃える道具もそう多くありません。ロッドは2・4mか2・1mクラスのシーバス用やエギング用で充分使えます。ワインド専用といっても安価なものもあります。リールもシーバスやエギングと同じものが流用できます」

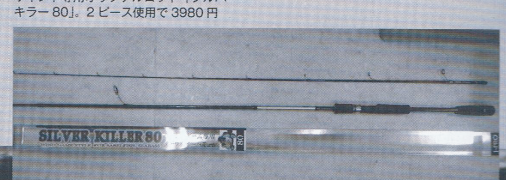
まずは気軽に相談してみよう。



a／ワインド釣法の仕掛け類。（上左端から右に）ジグヘッドがセットされた「お試しセット」、ワームの内部にねじ込むケミカルライト「ケミチューン」赤と緑、マナティーK3（9cm）ワインド専用ジグヘッドのZZヘッド、ワインド用フック（カルティバがトリプル、がまかつはダブル） b／忘れ物、落とし物をしないためのバッカン。雨でも水が浸入しにくいタイプがおすすめ c／ハサミ類。（左上から下に）魚を外す時のフックプライヤー、トリプルフックなど付け替える時使うスプリットショットプライヤー、PEラインなども切れるハサミ、（右側は）魚バサミ。どれも歯の鋭いタチウオには必需品 d／ヘッドランプは軽くて明るいものが理想 e／ルアーを選んだり付け替える時に便利なライト。写真の商品は感応式

遠慮せず相談しよう

釣り人は釣具店が大好き。ヒマがあったら通う理由はコレなんだ？ みたいなワンダーがいつ行っても見つかるから。

釣りのタックルはそれほど大から小までアイテム数が多いから、ほしいもの、探しているものがあれば遠慮せずお店の人に相談してみよう。聞くことが必要なものをムダなく素早く見つける近道なのだ。（写真は大阪平野区にあるフィッシングエイト本店☎06-6799-0080）

ワインド専用オリジナルロッド「シルバーキラー80」。2ピース使用で3980円